

教材・教具の紹介

楽器「むち」を練習するための 自作曲「むちをパチン！」

齋藤 一 雄*

1 楽器「むち」と自作曲「むちをパチン！」

東京都交響楽団がマーラー作曲交響曲第6番を演奏したときに、長さ約90cm、幅約12cmの板を打ち合わせて鞭の音を出していた。演奏方法としては、片手で1枚ずつ板を持ち、演奏する部分でタイミングをはかり、打ち合わせるだけでよい。わかりやすくシンプルな奏法である。そこで、発語はなく多動傾向がある高等部の知的障害の生徒に合わせて、厚さ1.2cm長さ90cm、幅6cmにカットされた檜材を使って自作した。

この自作楽器「むち」は高等部合同の合奏で用いた。合奏では曲全体の構成を知り、各楽器が演奏部分を分担し、互いに聞き合い、役割を果たす必要がある。また、テンポを合わせる、音の強弱を変化させるなど、演奏そのものについてコントロールすることがどうしても求められる。

楽器「むち」の奏法になれ、テンポやタイミングを合わせることや音の強弱のコントロールなどの練習ができる自作曲「むちをパチン！」を自作した。

2 自作曲「むちをパチン！」の概要

自作曲「むちをパチン！」は、4/4拍子、ハ長調、前奏2小節＋8小節の短い曲とした。この曲は、動作を示す歌詞＋擬音「パチン」を組み合わせた短いフレーズからできている。

前奏は2小節だが、前半のフレーズと後半のフレーズを組み合わせ、先取りするようにして明示した。そして、最初は、2小節で一つのフレーズ「むちを両手で パチン」を繰り返し、後半のフレーズは「大きく大きく パチン」と「小さく小さく パチン」と繰り返すが、最初の「大きく大きく」のフレーズは強く演奏し、後半の「小さく小さく」は弱く演奏するようにした。

また、1小節4拍「むちを両手で」で準備し、2小節目の頭に「パチン」と合わせるようにした。同様に、「大きく大きく」で準備し、「パチン」と合わせるようにした。

3 指導上の留意点

- 最初に、楽器「むち」の持ち方と姿勢を知っておく必要がある。背筋を伸ばし、肩幅と同じぐらいに両足を広げ、よい姿勢で立ち、両腕の肘を脇につけ、片手で1つの持ち手を持ち、両手を肩幅と同じぐらいに広げて、準備の態勢を作っておくことが重要である。
- 演奏方法については、タイミングをはかり、左右同時に内に向かって動かし初め、打ち合わせるだけでよい。わかりやすくシンプルな奏法である。

- 音を何回か出して、どんな音なのか確かめておく。その際に気をつける点は、両手で打ち合わせたときに打ち合わせたままにしないことである。「パチン！」と合わせた直後に広げる必要がある。
- それから、「むちをパチン！」をピアノ演奏で聞いてもらい、曲の構成や雰囲気を感じ取ってもらうようにする。その際、児童の前にいる教師は、「パチン！」の部分に合わせて打ち合わせる動作をしてみせる。また、強く鳴らすときには大きな動作で、弱く鳴らすときには小さな動作で表現してみせる。
- 音を出さないときには、両手を肩幅に広げてみせ、音を出さないことがわかるようにする。または、胸に楽器をあてておく方法もある。
- 前奏と「むちを両手で」の部分では、上半身を軽く上下させ、拍をとりながら待つようにする。
- 「パチン！」の直前には、上下の動きをやや大きくして、次に「パチン！」と打ち合わせることを示すようにする。そして、打ち合わせる。
- 「大きく大きく」の部分では、上下動を大きく示し、両手を肩幅よりも広げ、打ち合わせる速さを速くする。逆に「小さく小さく」の部分では、上下動を小さくし、両手を肩幅よりもせまくとり、打ち合わせる動きの距離を小さくするようにする。
- むちで指や手、顔などを挟まないように注意する。

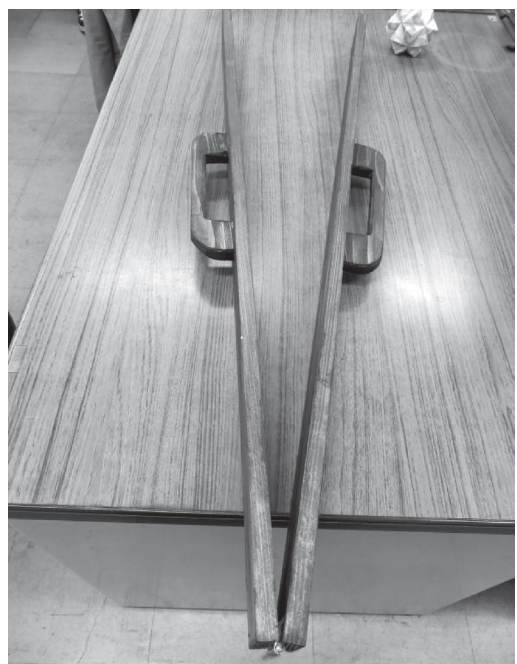


写真 自作した楽器「むち」

* 上越教育大学大学院学校教育研究科

むちをパチン！

齋藤一雄 作詞・作曲

The musical score is written for piano in common time (C). It consists of three systems of music, each with a treble and bass staff. The first system is an instrumental introduction. The second system includes lyrics: *mf* むちをりょうてで パチン! むちをりょうてで パチン!. The third system includes lyrics: *f* おおきく おおきく パチン! *p* ちいさく ちいさく パチン!. The score uses various dynamics and articulation marks to guide the performer.

楽譜 自作曲「むちをパチン！」

4 活用例

対象は、特別支援学校（知的障害）小学部高学年の児童か中学部や高等部の生徒まで、幅広く適用できる。特に、楽器自体が1m前後の長いものなので、身長の高い低学年の児童には、活用しにくい。

そこで、特別支援学校（知的障害）小学部高学年の児童にいくつか打楽器を用意し、好きな楽器を選択する場面を設定した。楽器「むち」を2台用意したが、二人の児童が選択していった。楽器としては興味関心のもてるものだということがわかった。楽器「むち」を逆さまに持って、たたき合わせている児童もいたが、持ち手が中央部分にあるので、十分によい音を出すことができた。

自作曲「むちをパチン！」は、歌詞に合わせて「パチン」とたたき合わせるものであるが、楽器「むち」を持つと、パチンパチンと連続してたたき合わせている様子がみられた。

「むちは自分の胸にあてておくよ」という児童の前で見本

をみせると、顔を楽器「むち」ではさんでみせる児童もいたが、鳴らし続ける児童もいた。

伴奏に合わせて教師が歌いながら見本を何回か見せると、「パチン」のところで楽器「むち」をたたき合わせることがみられるようになった。さらに、教師は楽器「むち」でリズムを取ってみせ、「パチン」のちょっと前に楽器「むち」を大きく開いて準備を促すと、同様な動きをして「パチン」と鳴らす児童もいた。

「大きく」「小さく」の部分も、教師が大きな動作を示したり、小さく小さくなったりして示すようにした。児童も一緒に小さくなる子もいたが、楽器を打ち合わせる力をコントロールすることはなかなかむずかしかった。

歌は、児童が歌うにはやや音取りが取りにくく、印象的な部分は「パチン」だけだったので、歌って演奏できるように改善する必要もあるかもしれない。